Ⅱ－４　本荘中地区　（図６参照）

１．（本荘中）国最先端医学研究拠点新営その他工事（外構工事）に伴う立会調査（1406）

＜調査期間＞

2014年4月18日，５月19日

＜調査面積＞

1672.7㎡

＜調査員＞

大坪志子・山野ケン陽次郎．

＜調査概要・結果＞

国際先端医学研究拠点新営に伴う，アスファルト舗装，インターロッキング舗装や縁石，Ｕ字溝，集水桝の設置，植樹に係る立会調査を実施した．まず，新営建物北側に側溝を通すための立会を実施した．３箇所に試掘トレンチを設定して，それぞれ0.8×0.7ｍの範囲を掘削した．0.6～0.7ｍの深さまでを掘削したが，各地点とも埋土内でおさまり，遺構・遺物の検出はなかった．旧医学部講義棟の南では集水桝とこれに伴うＵ字溝の設置のため，３箇所に試掘坑を設置，掘削した．集水桝設置地点には既存の管が埋設されていたため，熊本市教育委員会文化振興課へ連絡し，掘削位置を東へ３ｍ程ずらすなど掘削範囲の変更が生じた．集水桝設置箇所には約1.1ｍ×0.8ｍの試掘坑を設け，地表下約1.1ｍまで掘削したが，全て現代埋土であった．また，Ｕ字管設置箇所には約５ｍ間隔で約1.5ｍ×１ｍの２つの試掘坑を設けた．地表下約0.7ｍまで掘削したが，いずれも近代埋土であった．

国際先端医学研究拠点の南側において，東西方向４箇所で集水桝の設置に伴う立会を実施した．いずれも約１ｍ×1.4ｍで，地表下0.75ｍまで掘削をおこなったが，全て現代埋土であり，最下層には山砂が堆積していた．

建物東側では，南北方向３箇所で植樹に伴う立会を実施した．いずれも直径約２ｍの円形で，地表下約0.5ｍまで掘削をおこなったが，全て現代埋土であった．

新営建物北側では，側溝を通すための掘削に伴う立会を実施した．３箇所に試掘トレンチを設定して，それぞれ0.8×0.7ｍの範囲を掘削した．0.6～0.7ｍの深さまでを掘削したが，各地点とも埋土内でおさまっている．

この他，アスファルト舗装，インターロッキング舗装，縁石，ブロックの設置に係る掘削が，建物周辺の広い範囲でおこなわれたが，従前の調査および今回の立会の結果，全地点で地表下0.5～0.7ｍまで現代埋土であることが確認できたため，文化層への影響は一切ないと判断し，工事業者に慎重に掘削するよう指示した．いずれの調査

写真213　中央試掘地点作業風景（北より）

写真214　中央試掘地点掘削状況（南より）

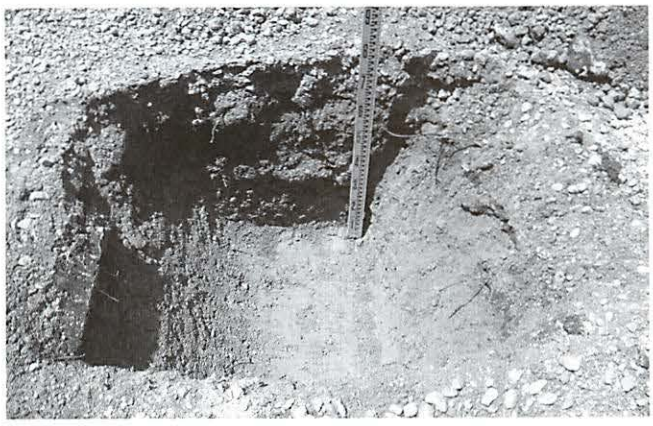


写真215　西側集水桝部分重機掘削作業風景（北東より）

写真216　西側集水桝部分掘削状況（南西より）

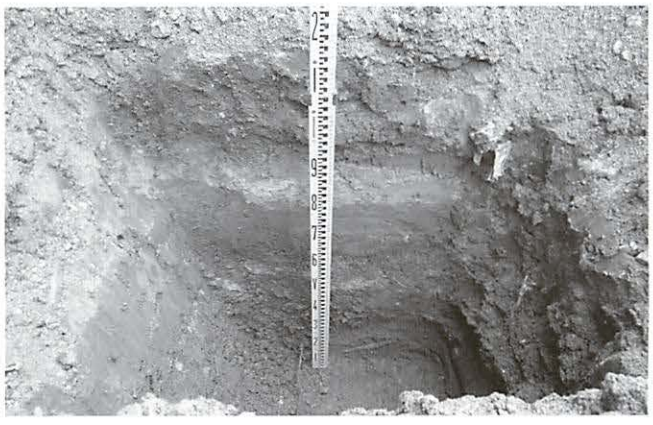


図６　本荘中・南地区における調査地点配置図（1/2000）

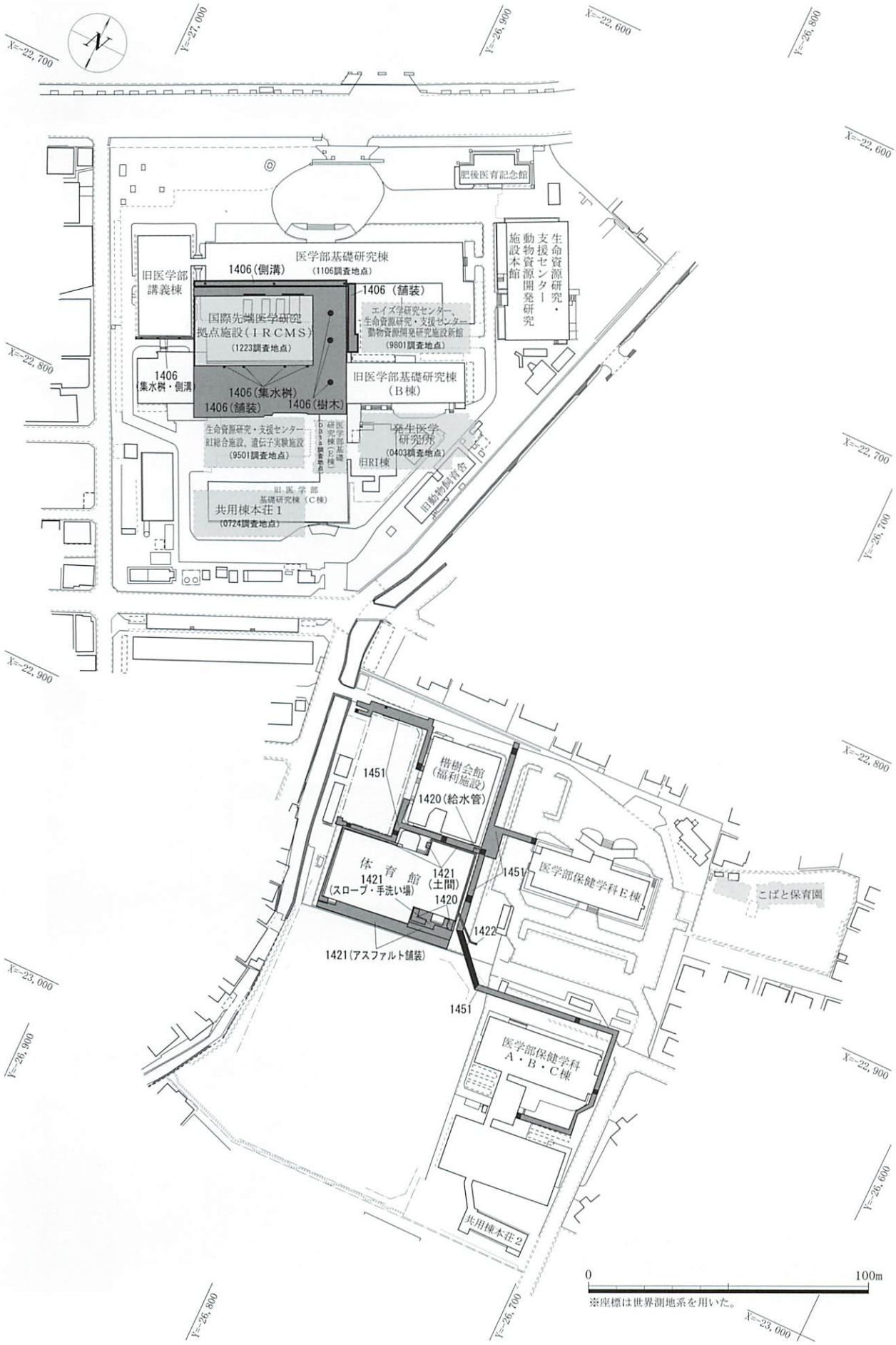


写真217　南側集水桝部分重機掘削作業風景（北西より）

写真218　南側集水桝部分掘削状況（南西より）

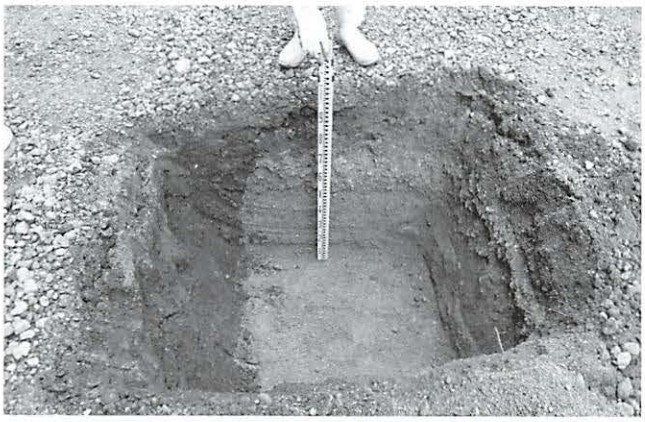
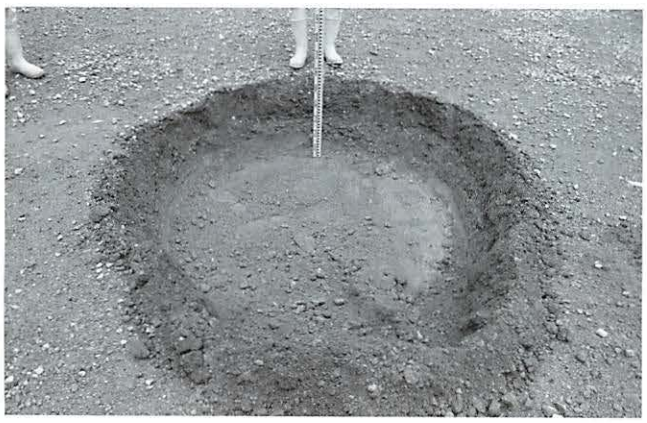


写真219　植樹部分重機掘削風景（東より）

写真220　植樹部分掘削状況（北西より）



でも遺構・遺物は検出されなかった.

Ⅱ－5　本荘南地区　（図6参照）

1．（本荘南）体育館改修機械設備工事に伴う立会調査（1420）

＜調査期間＞

2014年10月14日

＜調査面積＞

26㎡（0.16㎡）

＜調査員＞

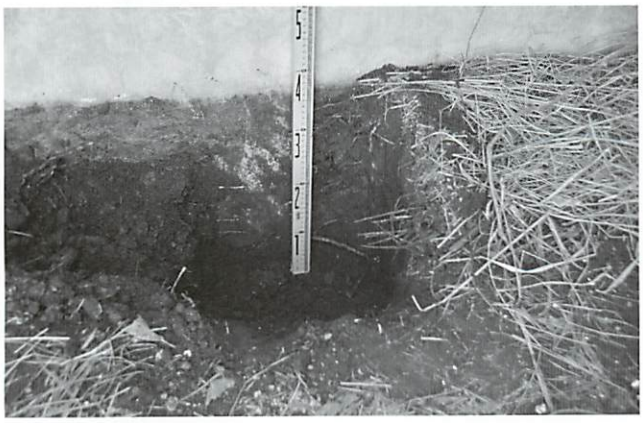
大坪志子.

＜調査概要・結果＞

本荘南地区の体育館改修に伴う屋外排水・給水工事である．掘削予定範囲は，体育館の南側でスロープ設置・手洗い場設置箇所と重複する．体育館北東角の給水管撤去の掘削について立会を実施した．建物に沿って0.4×0.4mの範囲を試掘した．その結果地表下0.25mで撤去予定の管を検出した．管の埋設深度が浅く，建物の掘方内でもあるため，遺物包含層や遺構面には影響ないと判断した．遺物の出土もない．

写真221　作業風景（北より）

写真222　掘削状況（北より）



2．（本荘南）体育館改修工事に伴う立会調査（1421）

＜調査期間＞

2014年10月14・15日

＜調査面積＞

320.02㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

本荘南地区にある体育館の改修工事のなかで，掘削深度が最も深い手洗い場設置部分，スロープ新設部分の掘削に立会った．

第2体育館南側入り口にある階段を挟んで西側にスロープを，東側に手洗い場を新しく設置する工事である．地表下0.85mまで掘削をおこなった．いずれも埋土内に収まり，遺物包含層および遺構面には達しなかった．このほかのインターロッキング・土間設置・アスファルト舗装等の工事は，掘削深度が0.85mより浅く，既往の調査成果からも遺物包含層・遺構面には達しないと判断し，施工よしとした．

写真223　作業風景（東より）

写真224　調査範囲東側掘削状況（東より）

写真225　調査範囲西側掘削状況（南東より）

3．（本荘南）体育館改修電気設備工事に伴う立会調査（1422）

＜調査期間＞

2014年10月14日

＜調査面積＞

6.48㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

第二体育館の東南角から，東南側道路上に設置されている桝の間に電線を通す工事である．幅0.8m，深さ0.7m前後で掘削をおこなった．古代の遺物包含層および遺構面は検出されなかった．全体として砂質の綺麗な土層で，本荘南地区の遺構面はこのような土層である可能性も考えたが，今回の掘削範囲で遺構は検出されなかった．

写真226　作業風景（南東より）

写真227　掘削状況（南西より）

4．（本荘南）ポンプ室設備及び給水設備取替工事に伴う立会調査（1451）

＜調査期間＞

2014年５月２日

＜調査面積＞

180㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

本荘南地区において，ガスおよび井水配管のために，総延長360mを掘削した．

テニスコート周辺，楷樹会館周辺，体育館周辺，医学部保健学科Ａ棟周辺について14地点で試掘をおこなった．いずれも，地表下0.8m前後の掘削をおこなった．既往の配管工事と重なる地点も多く，建物に隣接し掘方におさまる箇所もあった．全ての地点で埋土内であり，包含層及び遺構面に影響は与えないと判断した．遺物の出土もなかった．

写真228　楷樹開館西側掘削状況（南より）

写真229　A 棟東側作業風景（北より）

写真230　⑦ A 棟東側掘削状況（北より）

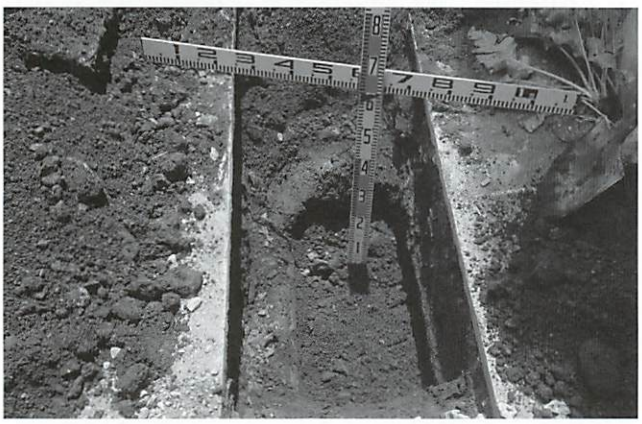


写真231　体育館東側作業風景（南より）

写真232　体育館東側作業風景（東より）

Ⅱ－6　大江地区（薬学部）（図７参照）

1．（大江北）体育館改修その他工事に伴う立会調査（1402）

＜調査期間＞

2014年４月11日

＜調査面積＞

60.80㎡（0.64㎡）

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

体育館の西側南部にスロープを設置する予定の箇所で，試掘をおこなった．既存の階段のコンクリート基礎を撤去して，その下の砕石をある程度除去したが，今回の工事で必要な掘削深度では砕石の中でおさまった．文化財への影響はなく，施工良しとした．

体育館南側のフェンス基礎の撤去について，一か所試掘・撤去をおこなった．基礎の周囲を0.9×0.4m の範囲，地表下0.5mまで掘削して基礎を引き抜いた．作業は埋土内におさまった．他の基礎も同様に撤去するよう指示し，立会を終了した．

写真233　スロープ部作業風景（西より）

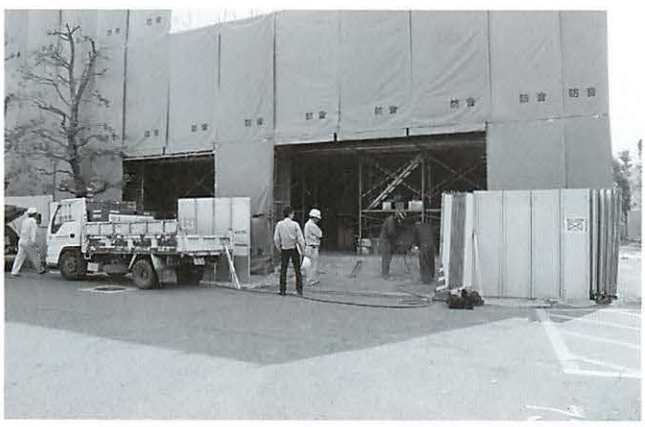


写真234　スロープ部試掘状況（西より）

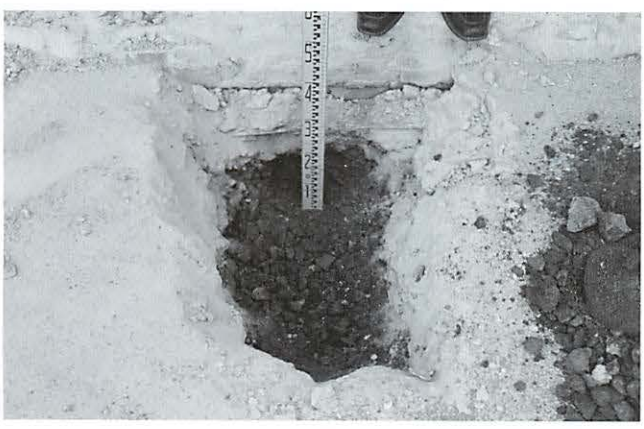


写真235　フェンス基礎撤去掘削状況（東より）

2．（大江北）体育館改修その他工事（機械設備工事）に伴う立会調査（1403）

＜調査期間＞

2014年４月14日～16日

＜調査面積＞

414.00㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

体育館周辺に，ガス管・給水管・汚水管・雨水管・消火管・桝類を埋設する工事である．汚水管以外については11箇所に試掘地点を設けて調査をおこなった．

体育館西側では６箇所において試掘をおこなった．地表下0.8mまで掘削したがいずれも埋土内であった．④は水道管の接続のためで，作業に十分な深さで掘削は終了した．⑤はガス管の接続のため，作業に十分な1.4mまで掘削して終了した．⑥も止水した水道管を検出して終了した．いずれも掘削は埋土内である．

体育館南側では，３箇所において試掘をおこなった．汚水管が最も深く，そのルート上２箇所（⑦⑧）で地表

写真236　④体育館西１作業風景（北西より）

図７　大江地区（薬学部）における調査地点配置図（1/2000）

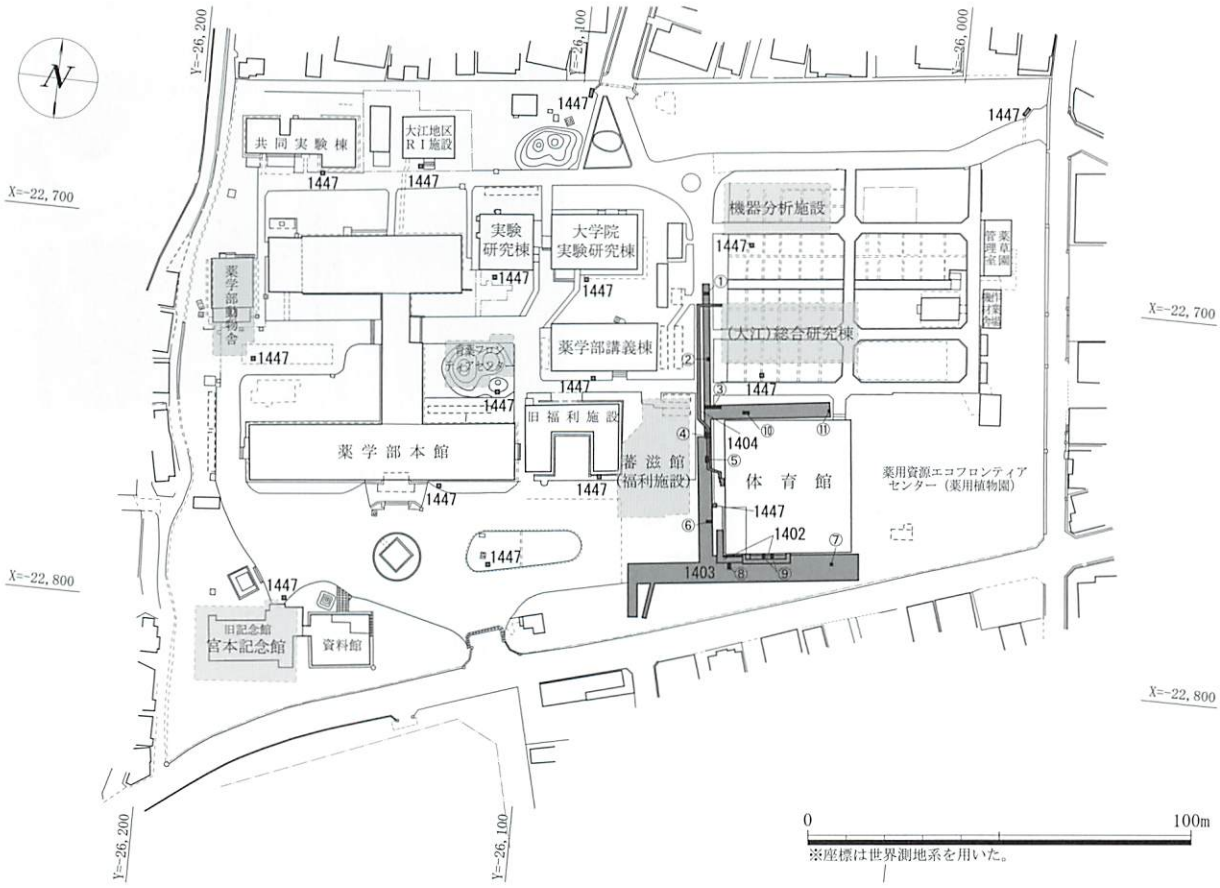


写真237　④体育館西１掘削状況（北より）

写真238　⑤体育館西２掘削状況（西より）

写真239　⑧体育館南西部試掘作業風景（東より）

写真240　⑧体育館南西部掘削状況（南より）

下0.65m前後まで掘削したが埋土内であった．体育館への管類の引き込みは，体育館建設時の掘方内で，やはり埋土内であった（⑨）．

体育館北側では，雨水桝の撤去を行い２箇所で試掘をおこなった．⑩⑪ともに埋土内である．北側に通す雨水管・汚水管は西側ほど深くなる．このため③で最も深くなるため，③での試掘結果から判断した．

体育館南西部の汚水桝は，地表下約1.1mで包含層を検出した．さらに掘削すると地表下1.65mで遺構面を検出した．調査区東壁下で幅0.2m，深さ0.1m程度の溝状の掘り込みを検出したが，遺構であるか判断できない．遺物は出土しなかった．

この桝から西側へ管路を掘削した．地表下0.9～1.0mまで掘削し，包含層上面を検出した．遺構は検出されなかった．工事としてはさらに掘削し，地表下1.3mまで掘削した．遺構面には達しなかった．

次の桝も地表下1.0mで包含層を検出し，さらに掘削して1.4mで遺構面を検出した．遺構は確認されなかった．

遺物としては，埋土と包含層から古代の土師器・須恵器の砕片が出土した．

写真241　汚水桝掘削作業風景（西より）

写真242　汚水桝遺構面検出状況（南より）

写真243　汚水管路掘削状況（西より）

３．（大江北）体育館改修電気設備工事に伴う立会調査（1404）

＜調査期間＞

2014年４月14日

＜調査面積＞

44.29㎡（0.6㎡）

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

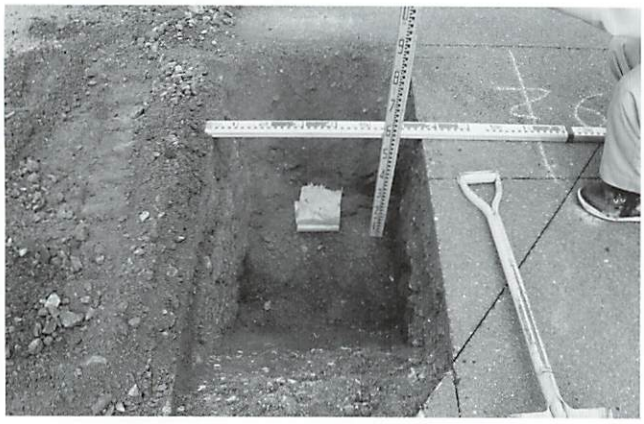
総合研究棟と体育館第一体育室西側の間を繋ぐ通信ケーブルを埋設する工事である．

それぞれ建物の西側から取り出し，道路を縦断するルートで繋ぐ．このうち，体育館付近は機械設備工事で同様の地点を掘削し，また電気工事より深いので，総合研究棟付近を試掘することにした．南北のルートの北端部を0.6×1.0m，深さ0.55㎥掘削した．この下に，別の電気配線が敷設されており，ルートの半分はこの配線の掘方内におさまることが判明した．

体育館付近は，電気の掘削予定地表下0.6mでは，埋土内であることが確認されたため，施工良しとした．

写真244　作業風景（北東より）

写真245　掘削状況（南より）



4．（黒髪他）屋外サイン設置工事（大江）に伴う立会調査（1447）

＜調査期間＞

2015年３月３日

＜調査面積＞

32.6㎡（3.91㎡）

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

大江地区のサイン設置工事は，全部で16箇所に設置したが，このうち文化層に影響が及ぶ可能性がある北門と東門付近の２か所について立会を実施した.

北門前は，北門から南に3.5m程の地点の緑地帯を掘削した．掘削途中で電気配線が検出されたため，北へ0.5m位置を変更した．0.9×2.3m の範囲を0.6mの深さまで掘削したが，埋土内でおさまった.

東門前は，東門から東に５m程の地点の緑地帯を掘削した．掘削途中でヒューム管が検出されたため，北側へ0.5m位置を変更した．0.8×2.3mの範囲を0.55mの深さまで掘削したが，埋土内でおさまった.

遺構・遺物の検出はない.

写真246　北門前作業風景（南東より）

写真247　北門前掘削状況（南より）

写真248　東門前作業風景（南東より）

写真249　東門前掘削状況（東より）

Ⅱ－7　京町地区　（図８参照）

1．（京町）教育学部附属中学校卒業記念樹再植樹に伴う立会調査（1405）

＜調査期間＞

2014年4月17日

＜調査面積＞

4.0㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎.

＜調査概要・結果＞

附属教育実践総合センターの東側花壇への記念樹再植樹に係る工事に伴う立会である.

約5.4m または９m 間隔で南北方向に４箇所, 直径0.4m, 深さ0.3～0.45m の掘削を実施した. 人力による掘削をおこなったところ, 全て近代瓦やガラス, 礫を含む現代の撹乱土で, 文化層への影響は一切なく, 遺構・遺物は確認できなかった.

写真250　作業風景（南より）

写真251　掘削状況（東より）

2．（京町）教育学部附属小学校給食センターとりこわしに伴う支障配管撤去工事に伴う立会調査（1407）

＜調査期間＞

2014年5月30日

＜調査面積＞

3.5㎡（1.2㎡）

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

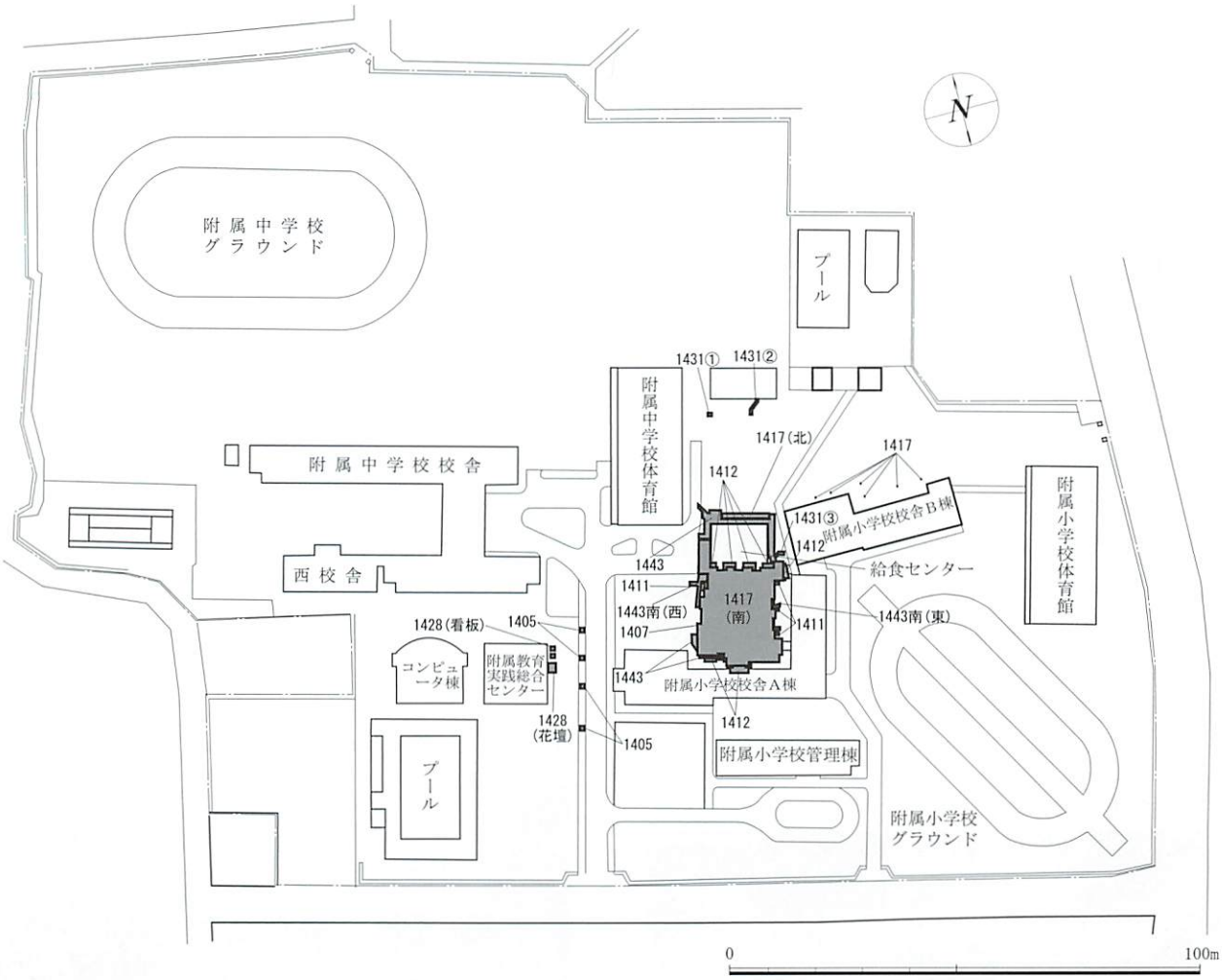
給食センターから西に延びる給水管を止めるための工事に伴う立会をおこなった.

地表下0.4mで既設管を検出し, 建物から2.4mほどまで確認した. 北へ曲がっている部分は, 0.2mほど深くなっていた. 配管を確認し, 作業に必要な深さまで掘削したが, 埋土内におさまり遺構・遺物は検出されなかった.

写真252　作業風景（西より）

写真253　掘削状況（西より）

図８　京町地区における調査地点配置図（1/1500）



※世界測地系なし。また、図は厳密な測量図でない。

３．（京町）教育学部附属小学校給食センターとりこわし工事（機械設備）に伴う立会調査（1411）

＜調査期間＞

2014年６月19日，26日

＜調査面積＞

16.0㎡

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

給食センターとりこわしに伴い，給水管を止め，排水管を３本撤去する工事に立会った．

建物西側北側で，既設の給水管を検出するための掘削をおこなった．建物より2.2m付近，深さ1.2mで給水管本管と分岐管を検出した．切断作業に必要なスペースを掘削し，埋土内におさまることを確認した．

建物東側の排水管３本については，全て地表下0.3m前後で排水管を検出した．桝への接続部は，管を抜いた後に穴をふさぐ作業をおこなうため，地表下0.5mまで掘削した．いずれも埋土内でおさまり，遺構・遺物の検出はない．

写真254　給水止掘削状況（北東より）

写真255　給水管周辺掘削状況（南より）

写真256　排水管①作業風景（南西より）

写真257　排水管①掘削状況（西より）

4．（京町）教育学部附属小学校給食センターとりこわし工事に伴う立会調査（1412）

＜調査期間＞

2014年６月19日，26日

＜調査面積＞

396.7㎡

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

給食センター取りとりこわし工事に伴い，建物基礎の撤去について立会を実施した．立会は建物の南東隅，建物中央北東より，西側中央の３箇所の基礎について立会った．

南東隅の基礎では，地表下1.2mで1.5×1.5mの布基礎が検出された．施工時の掘方は基礎の周囲0.3mの幅である．その外周では，地表下1.0mで包含層を確認できた．重機のバケット幅で芯を中心に掘削すれば，周辺の文化層には影響がないことを確認した．検出した基礎は鋏型重機で破砕しつつ引き上げるため，これ以上の掘削も伴わない．こうした掘削法と撤去法により作業を進めるように指示した．

建物中央東北よりの基礎撤去では，地表下0.5mで基礎を検出した．建物周囲の基礎よりだいぶ浅い．1.2×1.2mの布基礎の周囲0.3mはやはり掘方である．南側は地山であるロームが埋まっており，施工時にロームまで掘削していると考えられる．この基礎についても，破砕しつつ鋏型重機で引き上げることを確認した．

西側の基礎も地中梁に沿って掘削し，地表下1.2mで1.5×1.5mの布基礎を検出した．ほかの基礎と同様に，破砕しつつ鋏型重機で引き上げることを確認した．

その他の部分は機械設備工事に伴う立会の範囲（1443

写真258　南東隅基礎撤去作業風景（西より）

写真259　南東隅基礎掘削状況（西より）

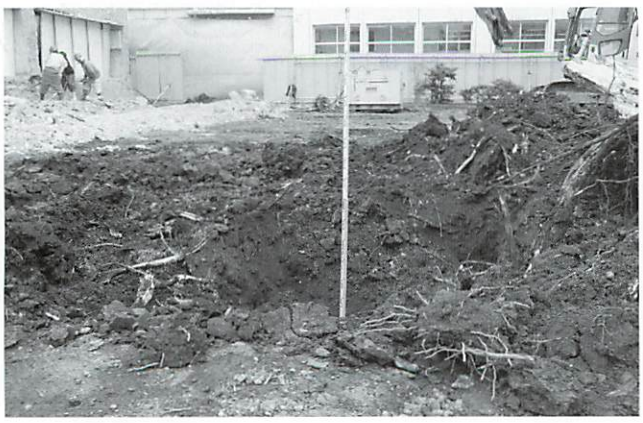
写真260　基礎撤去作業風景（北より）

調査地点）と重複しており，重複する部分は機械設備工事の掘削の方が深かったので，そちらの工事の際に調査した．調査は断続的に３月31日まで実施し，残りは次年度継続調査となった．

給食センター西側に植栽されていた５本の樹木の撤去をおこなった．最も大きい中央の樹木は，周囲を0.5m掘削したところで，包含層を検出したため，これ以上の掘削はおこなわず，鋏型重機で引き抜いた．ほかの４本については，周囲を掘削することなく，鋏型重機で引き抜いた．遺構の検出はない．

写真261　樹木①撤去作業風景（北西より）

写真262　樹木①撤去状況（西より）



５．（京町）教育学部附属小学校校舎新営その他工事（建築工事）に伴う立会・発掘調査（1417）

＜調査期間＞

2014年９月11日，11月５日～12月17日，２月26日～３月16日，３月27～31日（継続中）

＜調査面積＞

747.9㎡

＜調査員＞

大坪志子・松田光太郎・島浦健生・宮崎拓（株式会社有明測量開発社）・阿比留士朗（株式会社イビソク）．

＜調査概要・結果＞

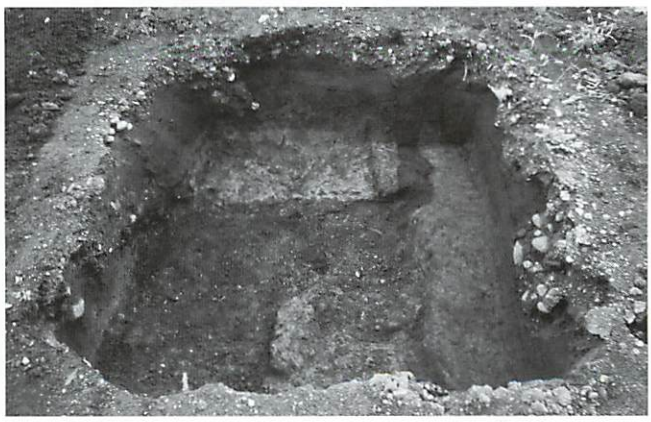
給食センター跡地に新たに校舎を建築する工事に伴う立会である．給食センター南側の校舎新築部と同北側の調理室外周部に大きく分けられる．

給食センター南側の校舎新築部は建物の壁に位置する基礎掘削部，建物の西・南側の外縁に位置するスロープ基礎掘削部，建物中央の中央部，建物西側のアスファルト舗装部からなる．

基礎掘削部は基礎部と基礎梁部からなる．基礎部は長方形の建物の東西南北の各辺に合わせて，約３×３ｍの正方形ないしは約３×５ｍの長方形の桝を，17箇所掘削するものであった．掘削深度は調査区北側の地表付近の

写真263　調査区近景（北西より）

写真264　桝３遺構確認状況（南より）



基準面から約1.6mであった．南辺では５箇所の基礎とその南側の２箇所の小基礎があり，５箇所の基礎は東から桝１～５，小基礎は西側から桝16・17とした．東辺には３箇所の基礎があり，南側から桝６～８とした．北辺には４箇所の基礎があり，東側から桝９～12と命名した．西辺には３箇所の基礎があり，南側より桝13～15と命名した．

掘削の結果，複数の桝においてピットの存在が確認された．そこで熊本市教育委員会文化振興課および熊本県教育庁文化課の許可を得，11月５日，発掘調査へ切り替えて調査することになった．

基礎部は給食センターの建物基礎があったため，いずれの掘削部も中央は大きく攪乱を受けており，基礎部の周縁のみ攪乱を受けていない土が残存していた．調査の結果，調査区北西部の桝12・15で弥生時代の竪穴住居と思われる床面と掘り込みを確認した．ここは削平を受けているためか，地表下約0.3mで住居床面が検出された．住居は部分的に検出したにすぎないが，平面形は方形プランをなすと思われた．住居内からは弥生土器が多く出土した．

また南辺の桝４では須恵器片が入った柱穴が検出された．この柱穴は径0.3m以上，深さも0.5mほどあり，掘り込みの下底は黄褐色ローム層まで達していた．このような柱穴は桝３や桝14などでもみつかっている．これらを含め，ピットは各桝で確認された．しかし東側の桝６～８のピットは掘り込みが浅く，柱穴の可能性は低いものであった．

基礎部では土層の記録もおこなった．表土下に部分的に褐色気味の暗褐色土が厚さ0.1mほどあったが，本層は調査区東側に限って存在した．古代～近世に相当する土は遺構埋土を除き，存在しなかった．その下地表下0.3mで全域的に暗褐色土が厚さ0.2mほどあった．さらにその下に暗褐色粘質土－通称ニガ－が0.2～0.3mの厚さで存在した．調査区東側では本層の黒味が強い土が存在した．そして漸移層をはさんで，黄褐色ローム層に移行する．黄褐色ローム層は調査区北西部において地表下0.7mで確認された．黄褐色ローム層上面は北西部を頂点にして，東側および南側へ緩やかに高度を下げることがとらえられた．

また基礎梁部は基礎の桝間をつなぐように幅約1.7m，深さ約0.8m掘削するものであった．調査区北側では攪乱が浅く，地表下0.2～0.3mで暗褐色土が存在した．暗褐色土上面ではピットが数基確認されるとともに，桝９と10の間で暗褐色粘質土まで掘り込んだ溝状遺構が確認

写真265　桝12住居遺物出土状況（北より）

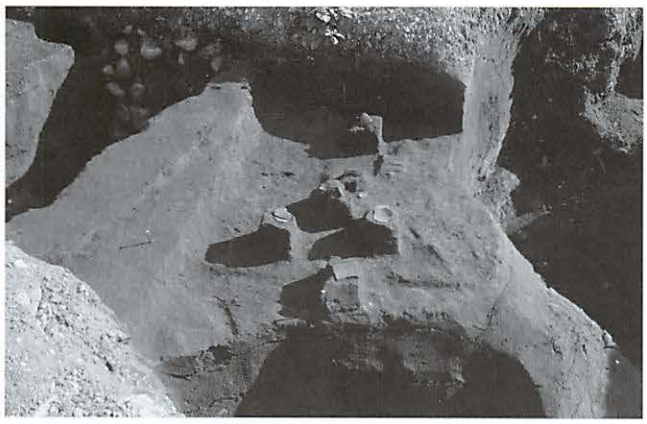


写真266　桝15住居遺物出土状況（東より）

写真267　桝４柱穴遺物出土状況（南西より）

写真268　桝３北壁断面（南より）

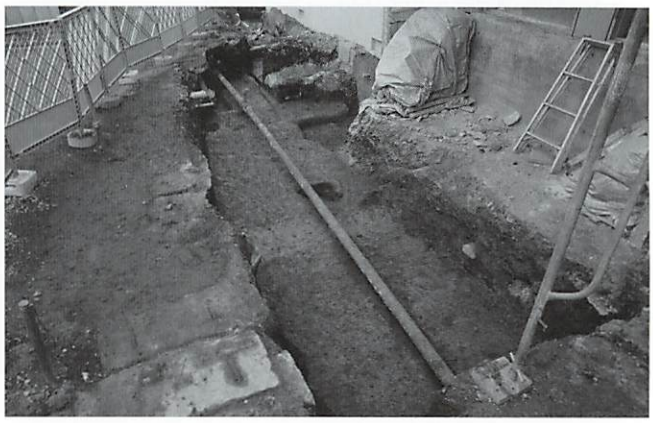
写真269　調査区北側基礎梁部遺構分布状況（西より）

写真270　桝９・10溝状遺構完掘状況（南より）

写真271　スロープ基礎掘削部住居床面（北より）

写真272　プラットフォーム部硬化面検出状況（南より）

写真273　プラットフォーム部調査終了状況（南西より）



された．またその後，暗褐色粘質土を掘り下げ，地表下0.7～0.8mで黄褐色ローム層が検出された．ローム層上面では，ピットなどの遺構を調査し，当該部分の調査を終了した．

基礎梁部のうち調査区西側は攪乱が深く，攪乱を除去すると暗褐色粘質土が現れた．ここは本層を少し掘削したところで，工事掘削深度に到達し，調査を終了した．

基礎梁部のうち調査区東側は攪乱が浅く，攪乱下に暗褐色土が残存していた．暗褐色土および暗褐色粘質土上面で遺構確認をしたが，遺構は検出されなかった．そこで暗褐色粘質土を工事掘削深度まで掘削して調査を終了した．暗褐色粘質土からは遺物は出土しなかった．

基礎梁部のうち調査区南側は全て現代埋土からなっていた．

スロープ基礎掘削部は建物の外縁部に位置し，建物南側と西側および，北西側の３箇所からなっていた．南側は攪乱埋土を地表下0.9mまで掘削して終了した．西側の南半は幅約2.5m，長さ約10mの範囲を地表下0.8mまで掘削した．全て攪乱埋土であった．一方西側の北半では，桝14・15の間の幅3.7m，長さ約７mの範囲において，現代埋土下に遺構および暗褐色粘質土の存在を確認した．遺構は床面と思われる硬化面が２枚重なって存在しており，弥生時代の竪穴住居２基があったものと考えられた．攪乱の存在により，住居の北および西の辺の一部を確認したにとどまったが，主軸を西北西－東南東にとる方形基調の住居と思われた．

スロープ基礎掘削部の北西側は給食センター北側の調理室外周部の南西部にもつながる部分で，幅3.7m，長さ13.5mの範囲を，プラットフォーム部と称して調査した．地表下0.4mまでは現代埋土，その下に暗褐色土が検出され，それを５cmほど掘削すると硬化面が確認された．この硬化面は暗褐色粘質土の上面に存在し，出土土

写真274　中央部遺構確認状況（北より）

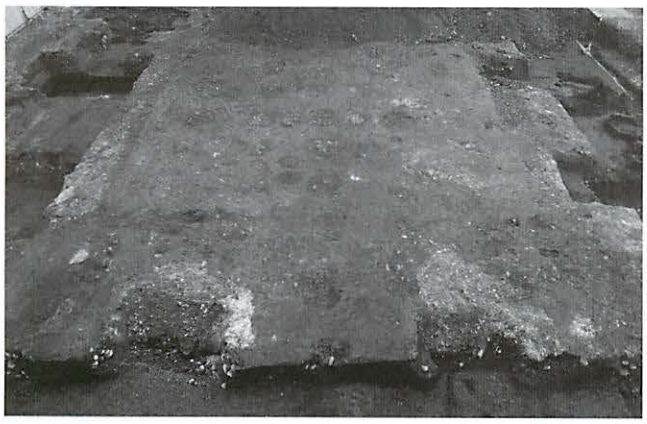


写真275　アスファルト舗装部掘削状況（北より）

写真276　北側基礎掘削部掘削作業状況（西より）

写真277　北東部基礎掘削終了（東より）

器により，弥生時代の住居の床面の可能性が考えられた．しかし住居の掘り込みは確認できなかったので，住居とは断定できなかった．硬化面の調査後，暗褐色粘質土を掘り下げた．同層からは縄文土器片がわずかに出土した．同層の掘削を進め，地表下0.9mで黄褐色ローム層が確認された．ローム層上面では径0.15～0.2mのピットが3基検出された．

給食センター南側の中央部は基礎と基礎梁に囲まれた範囲に相当し，地表下0.2m掘り下げた．方形基調の掘り込みに栗石を入れた建物基礎と思われるものが発見された．建物基礎1個の大きさは0.4～0.6m四方の規模を有し，基礎は東西南北に並び，東西方向に5ないし8列，南北方向に9列確認された．基礎間の間隔は1.6～1.8mほどであった．栗石の間には砂が入っていた．遺物は出土していないので時代は不明である．

給食センター南側のアスファルト舗装部は建物西側のスロープ基礎掘削部の西隣にあたり，長さ24.1m，幅1.5～2.8mの範囲を，地表下0.12～0.44mまで掘り下げた．全て現代埋土であった．

給食センター北側の調理室外周部のうち南西部は前述のプラットフォーム部分として調査した．それ以外の部分は大部分が1443調査地点と重複していたので，重複しない部分である調理室の北東側部分に所在する小規模な基礎掘削部の掘削に立ち会った．ここでは一辺約1m四方，深さ0.5mの桝の掘削を5箇所おこなった．全て現代埋土内の掘削で終わった．

調査は断続的に3月31日まで実施し，残りは次年度継続調査となった．

6．（京町）教育学部附属教育実践総合センター等外部改修工事に伴う立会調査（1428）

＜調査期間＞

2014年11月19日

＜調査面積＞

7㎡

＜調査員＞

松田光太郎・島浦健生（株式会社有明測量開発社）．

＜調査概要・結果＞

教育学部附属教育実践総合センター建物東際の看板基礎2個とコンクリート製花壇1個の撤去に伴う立会である．

看板基礎のうち北側のものは径0.3mの円形，南側のものは径0.45mの円形のものであった．どちらも基礎の周りを幅約0.2m，深さ0.25m，人力で掘削した．その後，

写真278　調査区近景（北東より）

写真279　看板北側基礎掘削状況（東より）

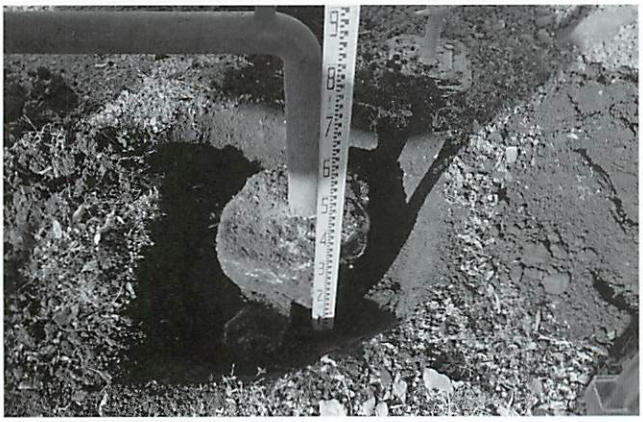


写真280　花壇掘削状況（東より）

基礎を重機で釣り上げ，撤去した．撤去後，地表下約0.5mの凹みができたが，全て現代埋土内の工事で済んだ．また花壇は半円形をなし，これについては，外周に沿って，幅約0.3m，深さ0.2mの土を人力掘削した．掘削は現代埋土であった．掘削後，花壇を重機で釣り上げ，撤去した．遺構・遺物の検出はなかった．

7．（京町）教育学部附属小学校校舎新営その他電気設備工事に伴う立会調査（1431）

＜調査期間＞

2014年12月15・16日

＜調査面積＞

12.5㎡

＜調査員＞

松田光太郎・島浦健生（株式会社有明測量開発社）．

＜調査概要・結果＞

教育学部附属小学校校舎建設に伴う電気設備工事に伴う立会である．

立会いは3箇所で実施した．①地点は附属中学校体育館東側のボイラー室の南西隅から南へ2.9mの位置である．地表下に所在するマンホールの蓋を探すための掘削で，アスファルトを5㎝剥がした段階で蓋が検出され，掘削は終了した．

②地点はボイラー室中央やや東寄りにあり，ボイラー室の南壁直下から南へ延ばす管路の掘削に立ち会った．掘削は同地点北側を幅0.6m，長さ0.9mの範囲を直線的に掘削した後，中央部は南西方向に直線的に長さ2.1m掘り，その後，南側は南方向へ直線的に長さ1.6m掘削した．掘削深度は北側・中央部で地表下0.6m，南側で

写真281　①・②地点調査区近景（南西より）

写真282　②地点掘削状況（南より）

写真283　③地点調査区近景（南西より）

写真284　③地点ピット検出状況（西より）

地表下0.8～1.0mであった．北側・南側は掘削底面まで全て現代埋土であった．中央部も掘削した地表下0.6mまでは現代埋土であったが，掘削底面において黄褐色ローム層が検出された．ローム面において遺構確認作業をおこなったが，遺構の検出はなかった．

③地点は附属小学校校舎B棟西側のコンクリート張り廊下から新営校舎までの間3.8mの管路の掘削に伴うものであった．廊下より西側1.4mに南北に走るコンクリート製の梁があり，それを境に東側1.4mと西側2.4mに分けられる．東側は地表下0.6m掘削した．配管もあり，攪乱が多く，掘削したのは現代埋土であった．西側は地表下0.9mまでの掘削であった．西端は工事掘削深度より深い攪乱が入っていたが，それ以外の所では，現代埋土を除去したところ，地表下0.8mでローム層が検出された．そしてローム層上面で遺構確認作業をおこなったところ，コンクリート製梁の西側0.8mの場所において，直径0.2mのピットが1基確認された．ピット部分は工事の掘削深度を浅くして，保存措置を講じた．ピット以西は遺構が無かったので，工事掘削深度である地表下0.9mまで慎重に掘り下げ，掘削を終了した．

3地点とも遺物の検出はなかった．

8．（京町）教育学部附属小学校校舎新営その他機械設備工事（その2）に伴う立会調査（1443）

＜調査期間＞

2015年2月26日～3月16日，3月31日（継続中）

＜調査面積＞

241.8㎡

＜調査員＞

松田光太郎・阿比留士朗（株式会社イビソク）．

＜調査概要・結果＞

給食センターの跡地に新たに建設する校舎に関係する機械設備を設置する工事に伴う立会である．給食センター南側の校舎新築部と同北側の調理室外周部に大きく分けられる．

給食センター南側の校舎新築部については，新築校舎の東側と西側に分けて説明する．

新築校舎東側は3箇所からなるが，全て既存の桝と建物の間に管路を通すための掘削であった．掘削は幅0.3m，長さ0.1～0.5m，深さ地表下0.4～0.5mまで掘削した．掘削した土は現代埋土であった．

新築校舎西側はその北西端を起点として幅0.7m，長さ13.3mの範囲を地表下0.7～0.8mまで掘削した．当該地区の北半はほとんどが攪乱を受け，一箇所，掘削底面

写真285　新築校舎東側近景（北より）

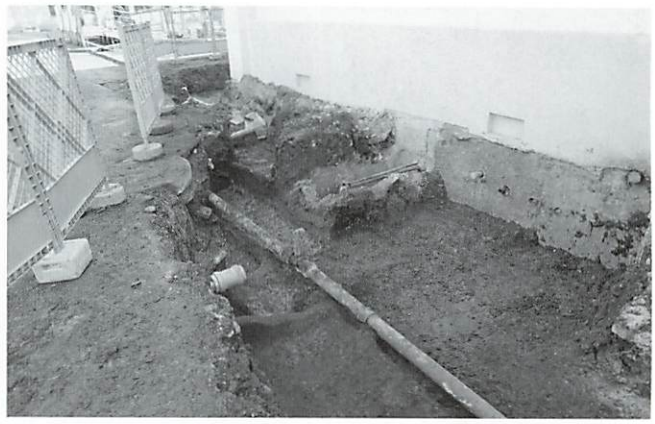
写真286　新築校舎東側掘削状況（北西より）

写真287　新築校舎西側遺物出土状況（北より）

写真288　新築校舎西側マンホール部掘削状況（東より）

写真289　調理室外周西部近景（南より）

写真290　調理室外周西部掘削状況（南より）



において南北0.5m幅の範囲で暗褐色土が確認されただけであった．掘削したのは攪乱埋土だけであった．

当該地区の南半6.0mも大半が攪乱を受け，掘削底面である地表下0.8mにおいて，0.5×0.35mの範囲にわずかに暗褐色粘質土を確認した．掘削したのは攪乱埋土のみであった．

当該地区の中央部は西側2.5mにあるマンホールから東に延びる管路とT字状に交差していた．この交差点付近において，地表下0.55mで弥生時代の遺物包含層の存在が確認された．包含層は遺物が出土するため，人力掘削をおこない，弥生土器が数点出土した．遺物包含層の下部には一部硬化面が認められたが，遺構のプランは捉えられず，住居かどうかは判断できなかった．その後，ここは地表下0.8mまで掘削して終了した．

西側にあるマンホールを結ぶ管路は幅0.8m，長さ2.5mであった．この管路の東側は攪乱により壊されていたが，その西側は地表下0.5mで暗褐色土が存在した．管路西側ではピットのような遺構が確認されたため，熊本市教育委員会文化振興課へ連絡し，３月30日現地確認を得，立会調査の中で記録することになった．調査の結果，ピットと思われる遺構は攪乱であることが判明した．マンホールを結ぶ管路部分は地表下0.6mまで掘削し，終了した．

一方，給食センター北側の調理室外周部は西部・北部・東部に分けて説明する．西部と北部は1417調査地点と多くの部分において重複していた．

調理室外周の西部のうち，南西部は1417調査地点のプラットフォーム部分として調査した．南西部以外の部分は配管ルートに合わせ，幅1.3～3.0m，長さは全体で約７m掘削した．掘削深度は概ね約0.8m．掘削したのは大部分が現代埋土であった．一箇所，幅0.1m・長さ1.0mにわたり暗褐色粘質土を検出した．暗褐色粘質土を慎重に掘削したが，遺物・遺構は検出されなかった．暗褐色粘質土の下は黄褐色ローム層が検出された．

調理室外周の北部は長さ約23mにわたり，幅0.7m，深さ0.5～1.0m掘削した．北部の西端は排水設備を設置するため，幅2.3m，深さ1.9mまで掘削した．全面的に攪乱が入っており，掘削したのは大半が現代埋土であったが，北部の東端で攪乱は途切れ，暗褐色土が地表下0.85mで確認された．遺構確認したところ，ピット２基と溝状遺構１基が検出されたため，それを調査した．ピットは径が0.2m程のものが２基存在した．溝状遺構は幅0.46m，深さ約0.20mで，東西方向に走り，東側が浅くなって途切れていた．

また北部として掘削した部分の北西隅を起点に，体育館に向かって管路を通す必要があったので，幅0.7m，長さ4.1mの範囲を地表下0.8mまで掘削した．掘削域内には水道管があるなど攪乱が多く，現代埋土のみの掘削であった．また当管路の接続部分を深さ地表下1.6mまで掘削した．底面で黄褐色ロームが検出された．

調理室外周の東部は幅1.5m，長さ13.3m，深さ地表下0.5～0.7m掘削した．掘削範囲の中央部に北西から南東にかけて使用中の配管が横断しており，配管直下およびその両脇付近には黄褐色ローム層が検出された．配管から離れると攪乱が深くまでおよんでおり，掘削底面に至っても攪乱埋土やコンクリートが存在していた．今回の工事で掘削したのは現代埋土のみであった．

調査は３月31日まで実施し，残りは次年度継続調査となった．

写真291　調理室外周北部掘削状況（西より）

写真292　調理室外周北部遺構全景（北西より）

写真293　調理室外周東部掘削状況（北より）

Ⅱ－8　渡鹿地区

1．（渡鹿２）渡鹿宿舎駐車場増設工事に伴う立会調査（1450）

＜調査期間＞

2015年３月16日

＜調査面積＞

213.6㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎.

＜調査概要・結果＞

渡鹿宿舎の駐車場増設に伴う樹木撤去および舗装に係る立会である.

調査範囲は約26.2×7.2m，掘削深度が0.4mで，この北端にキンモクセイ１本とツバキ４本が植えられている.はじめにキンモクセイの抜根を重機によっておこなった.掘削では重機によって根の間の土を掘削しつつチェーンソウで根を切断しながら堀下げた．地表下0.9mあたりで根が上がったため，全体清掃をおこなったが，壁も含めて全てガラスなどが混入する現代埋土におさまっていた.

写真294　キンモクセイ抜根部分重機掘削作業風景(北より)

写真295　キンモクセイ抜根部分掘削状況（北西より）

写真296　塗装中央部掘削状況（東より）

写真297　塗装南東部掘削状況（東より）

４本のツバキの抜根では全てが1.5×1.5m程，深さ0.3m程で重機により抜根することができた．舗装のための掘削深度は0.4mと浅いため，調査範囲の中央部と南東部に４×１mと2.5×1.75mの試掘坑を設けて目標の深度まで掘削したが，全て現代埋土であった．そのため工事業者に掘削深度について指導を行い，立会を終了している.

遺構・遺物は検出されず，文化層も確認できなかった.

Ⅱ－9　城東地区

1．附属幼稚園プール遮光ネット取付に伴う立会調査（1409）

＜調査期間＞

2014年6月24日

＜調査面積＞

1.8㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

附属幼稚園のプール遮光ネットを設置するために，プールの南側5か所の基礎設置部分のうち，2か所について試掘・立会をおこなった.

西から2本目の試掘①では，0.5×0.5mの範囲を地表下0.4mまで掘削した．北側0.3mはプール本体のコンクリートがあり，南側はその掘方である．コンクリートの上に基礎を設置するため，これ以上の掘削はおこなわなかった.

もっとも東の試掘②は，プール本体から0.34m離れたところを0.5×0.5m，地表下0.5mまで掘削した．南側には既設の電気配線があり，その他の部分も埋土である.

遺構・遺物の検出はなかった.

写真298　試掘①作業風景（南より）

写真299　試掘①掘削状況（東より）

跋　文

遺跡の発掘調査では，調査地点付近の地下の情報を事前にできるだけ多く集め，内容を予想して調査するが，地下には時に想定を越えた事実が潜んでいる．この「想定外」にどれだけ気づきどう掘るかが現場担当者の腕だ．しかし現場作業は工事期間の約束によってしばしば急がされる．そんな中でも「想定外」を想定して緩急おさえた調査をし，相応の成果をだし，契約期間内に終了することが求められる．今回発見された縄文時代後期の人骨と江戸期の井手は，そんな中で見事に引き出された過去の風景である．

二つの発見は，大学の広報戦略ユニットを通して学内外に周知され，現場説明会をおこなって多くの方々に見ていただくことができた．学内の自然科学系の先生方からはさまざまのご指導をいただき，今後の共同研究の基礎を準備することもできた．縄文人骨については，谷口学長（当時）に学長裁量経費を手当していただき，出土状況とともに３次元計測で記録し，展示の説明に結びつけることができた．それぞれの遺構は，施設企画・管理両ユニットの理解を得て，周囲を養生して地下に埋め戻された．

遺跡の価値が調査者によって変わるものであってはならないが，やはり調査者の意識は重要だ．その価値をより高めるのは，調査者の学術的・行政的な熱意とこれを支える組織の連携とバックアップ，そして遺跡を理解し興味をもつ人々の広がりだろう．今回はこうした連携がうまく機能したと思う．学会や文化庁で熊本大学の姿勢が評価されたのは，誇らしいことであった．山野助教と大坪助教の労をねぎらいたい．

一般に埋蔵文化財調査は，早く開発を進めたい人々にとっては「やっかいもの」である．疎まれながら調査を急がされるのはつらい．しかし，たとえささやかな成果であってもこれを工事担当者に伝え，調査の意味を理解してもらうことができれば，遺跡の価値は少し上がる，本センターのスタッフはそう考えている．現在の人々に理解され支持されてこその文化財保護だと思うからだ．

昨年度は五高記念館でテーマ展示を開催した．センターとしては初めての展覧会で準備も大変だったし，経費もかかったがよい経験であった．これに合わせて発掘調査成果の速報展も開催した．これも初めての試みである．文化財散歩，ホームカミングデーの催しも継続した．講義への活用も徐々に増えてきている．これらの展示・広報活動は松田准教授がリードした．一連の活動は，本号の編集者である山野助教によってまとめられている．センターの息づかいが伝わる文章をご一読願いたい．

これからも，センター職員と知恵を絞りつつ，熊本大学らしい活動を進めてゆきたいと思う．関係各位のご理解とご協力をお願いする次第である．最後に，激動のセンターの事務を一手に支えてくれた大崎事務補佐員に感謝したい．

2016年１月

埋蔵文化財調査センター長
文学部教授　木　下　尚　子

Summary

The number of investigations in the fiscal year 2014 is the following: 7 excavation, 51 presence investigation. The main results are the following.

At 1310 excavation spot in the Kurokamimachi sites (south area), we excavated the site before the performing the lifeline renovation. It is continued from previous fiscal year investigation scope extends eastern half of Kurokami south area. We detected the ruins and relics of ancient in most all points. We detected artifacts such as pottery of Jomon period late preceding page from the under of the layer of ancient. In addition, we detected the graves and human bones of the first half of Jomon period late, so it became the important result in thinking about graveyard and settlement constitution of the time concerned.

At 1321, 1322, 1325 excavation spots in the Honjo site (north area), we excavated the site before maintaining a parking and drainage. It is continued from previous fiscal year, the investigation scope is located on the east side of old first aid building and the new outpatient care building. We found the ruins of ancient village, as with conventional investigation in this investigation. And we found the stone wall of "sannoide" which is in the Edo period latter at 1321 excavation spot.

At 1423 excavation spot in the Honjo site (north area), we excavated the site before performing cable repair work. We found the ancient ditch of the north and south axis, at this investigation spot equal to the northeast corner of the Honjo north area. There were few conventional investigations at this investigation spot, and existence of relics was not clear, but we were able to recognize the expanse of the ancient relic, at this investigation spot.

At 1417 excavation spot in the Kyomachidai sites, we excavated the site before building the department of education elementary school attached school building. We found several pit dwellings of the Yayoi period from the lunch center ruins. Pit dwellings of the Yayoi period were discovered in the conventional investigation at the south side of the accessory junior high school building of the west side of the lunch center, the possibility rose that a village of the Yayoi period spread out in this place.

In addition, at 1429,1430,1436,1437 excavation spot in the Kurokamimachi sites(south area), we found the red brickwork basics in modern period, before performing repair work of the headquarters. After the next fiscal year, we will carry out excavation.

In this year, we was able to get much result from all over the layer that we were not surveyed in the past. About the deep construction which is building in particular, we have to pay attention about existence of cultural layer. We should arrange result of this excavation, and we would like to meet with future's investigation.

2014 년도에 실시된 조사 건수는, 발굴 조사 7 건, 입회 조사 51 건이다. 주된 조사의 결과는 다음과 같다.

구로카미마치 (黒髪町) 유적군 1310 조사 지점에서는, 라이프라인 개수공사를 하기 전에 발굴 조사를 실시했다. 작년도에 이어서 조사 범위는 구로카미 남쪽 지구 동반에 이르렀다. 대부분의 조사구에서 고대 (역사 시대) 의 유구와 유물이 검출되었다. 고대의 문화층의 하층에서는 죠몬 시대 후기 전엽의 토기등의 유물이 많이 출토되었다. 또, 죠몬 시대 후기 전반의 무덤과 인골이 발견되어서, 당시의 묘역이나 취락 구성을 고찰하는 데 있어서 중요한 성과가 되었다.

혼조 (本庄) 유적 1321·1322·1325 조사 지점은, 주차장이나 배수 시설등을 정비하기 전에 발굴 조사를 실시했다. 작년도부터 계속된 조사구는 구구급동 및 신외래진료동의 동쪽에 위치한다. 조사는 종전의 조사와 같이, 고대의 취락지가 확인되었다. 또, 1321 조사 지점에서는 에도 (江戸) 시대 후기의「산노이데 (三の井手)」의 돌담이 발견되었다.

혼조 유적 1423 조사 지점에서는, 케이블 개수공사를 하기 전에 발굴 조사를 실시했다. 혼조 북쪽 지구의 북동 귀퉁이에 위치하는 이 조사 지점에서는, 남북축의 고대 도랑이 발견되었다.

이 조사 지점은 지금까지 조사 횟수가 적어서, 유구의 유무가 명확하지 않았지만, 이번의 조사로, 고대의 유구의 범위를 인식할 수 있었다.

교마치다이 (京町臺) 유적군 1417 조사 지점은, 교육 학부 부속 초등학교 교사를 건설하기 전에 발굴 조사를 실시했다. 급식 센터였던 장소에서는, 야요이 시대의 수혈 주거가 몇기 발견되었다. 종전의 조사로 급식 센터 서쪽의 부속 중학교 남교사 남쪽에서도 야요이 시대의 수혈 주거가 발견되어서, 해당 지구에 야요이 시대의 취락이 분포되어 있을 가능성이 높아졌다.

또 구로카미마치 유적군 1429 · 1430 · 1436 · 1437 조사 지점에서는, 본부 개수공사 전의 입회 조사로, 근대의 붉은 벽돌을 쌓은 기초가 발견되었다. 차년도부터, 발굴 조사를 실시하고 있다.

금년도는, 지금까지 조사 대상으로 하지 않은 토층안에서 많은 성과를 얻을 수 있었다. 특히 시공 심도가 깊은 공사에 대해서는, 문화층의 유무를 주시 할 필요가 있다. 이번의 조사 결과를 정리해, 앞으로의 조사를 실시할 생각이다.

付篇１　2014年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織

１．熊本大学埋蔵文化財調査センター規則（H23.9.22～）

（趣　旨）

第１条　この規則は，熊本大学学則（平成16年４月１日制定）第９条第２項の規定に基づき，熊本大学埋蔵文化財調査センター（以下「センター」という．）に関し必要な事項を定める．

（設置目的）

第２条　センターは，熊本大学（以下「本学」という．）に所在する遺跡を発掘調査するとともに，出土した埋蔵文化財を記録，保存及び活用し，もって本学の教育研究に寄与することを目的とする．

（業　務）

第３条　センターは，次に掲げる業務をおこなう．

(1)　埋蔵文化財調査の実施計画の立案及び実施に関すること．

(2)　出土した埋蔵文化財の整理，保管及び保存に関すること．

(3)　文化庁等に提出する報告書の作成に関すること．

(4)　その他センターの目的を達成するために必要な事項．

（職　員）

第４条　センターに，次に掲げる職員を置く．

(1)　センター長

(2)　専任教員

(3)　その他必要な職員

（センター長）

第５条　センター長の選考は，本学の専任の教授のうちから，第７条に規定する委員会の推薦に基づき，学長がおこなう．

２　センター長は，センターの業務を掌理する．

３　センター長の任期は，２年とし，再任を妨げない．

４　センター長に欠員が生じた場合の補欠のセンター長の任期は，前項の規定にかかわらず，前任者の残任期間とする．

（専任教員）

第６条　専任教員の選考は，熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会の議に基づき，学長がおこなう．

２　専任教員の選考に関し必要な事項は，別に定める．

（委員会の設置）

第７条　センターの管理運営に関する事項を審議するため，熊本大学埋蔵文化財調査センター運営委員会（以下「委員会」という．）を置く．

（委員会の組織）

第８条　委員会は，次に掲げる委員をもって組織する．

(1)　センター長

(2)　センターの専任教員

(3)　文学部及び教育学部から選出された教授又は准教授　各１人

(4)　法学部，大学院社会文化科学研究科又は大学院法曹養成研究科から選出された教授又は准教授　１人

(5)　大学院自然科学研究科から選出された教授又は准教授　各1人

(6)　大学院生命科学研究部の医学系又は医学部附属病院から選出された教授又は准教授　１人

(7)　大学院生命科学研究部の保健学系及び薬学系から選出された教授又は准教授　各１人

(8)　発生医学研究所，生命資源研究・支援センター又はエイズ学研究センターから選出された教授又は准教授　１人

(9)　運営基盤管理部施設管理ユニット長

(10)　その他センター長が必要と認めた者　若干人

２　前項第３号から第８号まで及び第10号の委員は，学長が委嘱する．

３　第1項第３号から第８号までの委員の任期は，２年とし，再任を妨げない．

4　第１項第３号から第８号までの委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は，前項の規定にかかわらず，前任者の残任期間とする．
5　第１項第10号の委員の任期は，学長が委嘱の都度定めるものとし，再任を妨げない．
（委員会の審議事項）
第９条　委員会は，センターに関する次に掲げる事項（熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会規則（平成16年４月１日制定）第３条に定める事項を除く．）を審議する．
(1)　センターの業務に関すること．
(2)　センター長候補者の推薦に関すること．
(3)　施設及び予算に関すること．
(4)　その他センターの管理運営に関すること．
（委員長）
第10条　委員会に，委員長を置き，センター長をもって充てる．
2　委員長は，委員会を招集し，その議長となる．
3　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する．
（議　事）
第11条　委員会は，委員の過半数が出席しなければ，議事を開き，議決をすることができない．
2　委員会の議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる．
（意見の聴取）
第12条　委員長は，必要があるときは，委員以外の者を委員会に出席させ，意見を聴くことができる．
（事　務）
第13条　センター及び委員会の事務は，運営基盤管理部施設企画ユニットにおいて処理する．
（雑　則）
第14条　この規則に定めるもののほか，センターの運営に関し必要な事項は，センター長が別に定める．

附　則
1　この規則は，平成23年10月１日から施行する．
2　国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査委員会規則（平成16年４月１日制定）及び熊本大学埋蔵文化財調査室要項（平成16年４月１日制定）は，廃止する．
3　この規則施行後，最初に任命されるセンター長は，第５条第１項の規定にかかわらず，この規則により選考　されたものとみなす．
4　この規則施行後，最初に任命されるセンター長の任期は，第５条第３項の規定にかかわらず，平成25年３月31日までとする．
5　この規則施行後，最初に委嘱される第８条第１項第３号及び第４号の委員の任期は，同条第３項の規定にかかわらず，平成25年３月31日までとする．
附　則（平成24年12月27日規則第142号）
この規則は，平成25年４月１日から施行する．

２．2014年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織

1　埋蔵文化財調査センター組織

＜センター長＞	（併・文学部教授）	木下　尚子（2011.10.1～）
＜専任教員＞		松田　光太郎
		大坪　志子
		山野　ケン陽次郎
＜事務補佐員＞		大崎　喜美子
＜室内作業員＞（2014年６月～2015年２月）		江口　路
		鬼塚　美枝
		小山　正子
		首藤　優子

	末吉　美紀
	増井　弘子
（2014年６月～2015年３月）	井上　裕美
（2014年11月～2015年３月）	宮崎　大和
（2015年３月）	與嶺　友紀也

２　埋蔵文化財調査センター運営委員会

委員長	木下　尚子	（埋蔵文化財調査センター長）	任期（2013.4.1～2015.3.31）
委員	杉井　健	（文学部准教授）	（2013.4.1～2015.3.31）
	黨　武彦	（教育学部教授）	（2013.4.1～2015.3.31）
	大澤　博明	（法学部教授）	（2013.4.1～2015.3.31）
	副島　顕子	（大学院自然科学研究科教授）	（2013.4.1～2015.3.31）
	伊東　龍一	（大学院自然科学研究科教授）	（2013.4.1～2015.3.31）
	宇宿　功市郎	（大学院生命科学研究部教授）	（2013.4.1～2015.3.31）
	大森　久光	（大学院生命科学研究部（保健学系）教授）	（2013.4.1～2015.3.31）
	本山　敬一	（大学院生命科学研究部（薬学系）准教授）	（2013.4.1～2015.3.31）
	大村谷　昌樹	（生命資源研究・支援センター准教授）	（2013.4.1～2015.3.31）
	佐藤　治行	（運営基盤管理部施設管理ユニット長）	（2013.4.1～2014.9.30）
	齊藤　正実	（運営基盤管理部施設管理ユニット長）	（2014.10.1～2015.3.31）
	木下　尚子	（埋蔵文化財調査センター長）	（2013.4.1～2015.3.31）
	松田　光太郎	（埋蔵文化財調査センター専任教員）	（2013.4.1～）
	大坪　志子	（埋蔵文化財調査センター専任教員）	（2013.4.1～）
	山野　ケン陽次郎	（埋蔵文化財調査センター専任教員）	（2013.10.15～）

審議事項

2014年６月12日　議題

１）平成26年度埋蔵文化財包蔵地における土木工事について

２）平成26年度埋蔵文化財調査センター予算配分（案）について

３）その他

報告

１）平成25年度埋蔵文化財発掘調査結果について

２）平成25年度埋蔵文化財調査センター運営経費実績について

３）その他

2015年２月17日　審議事項

１）埋蔵文化財調査センター長候補者推薦について

2015年３月９日　審議事項

１）埋蔵文化財調査センター規則の一部改正（案）について

付篇２　埋蔵文化財調査センター2014年度調査・研究活動記録

【調査員】

松田光太郎

・「北白川下層Ⅱｃ式・Ⅲ式土器の変遷－東海・近畿地方における縄文時代前期後葉の土器様相」『型式論の実践的研究Ⅲ』，人文社会科学研究科研究プロジェクト報告書第290集，千葉大学大学院人文社会科学研究科，pp.17-35.

・「刈羽式土器の成立とその展開－縄文時代前期後半の北陸地方東部の土器様相」『考古学論攷Ⅱ』，千葉大学文学部考古学研究室，pp.103-124.

・「大宰府へつながる官道」，2014年10月５日，熊本日日新聞，19面.

・熊大チャンネル　第４話「遺跡の宝庫！熊大ミステリーツアー」，2015年１月10日，KAB熊本朝日放送.（共同：大坪志子）

大坪志子

・「熊本大学構内遺跡における縄文時代後期遺跡の発見とその意義」『平成26年度九州考古学会総会研究発表資料集』，九州考古学会，pp.47-56.（共同：山野ケン陽次郎）

・平成26年度九州考古学会総会　研究発表「熊本大学構内における縄文時代後期遺跡の発見とその意義」，2014年11月30日，福岡大学.（共同：山野ケン陽次郎）

・熊本史学会　研究発表「江戸時代の三の井手発見について」，2014年12月６日，熊本県婦人会館.

・熊大チャンネル　第４話「遺跡の宝庫！熊大ミステリーツアー」，2015年１月10日，KAB熊本朝日放送.（共同：松田光太郎）

山野ケン陽次郎

・「２　藤原京の調査　左京五条三方の調査」『奈良文化財研究所紀要』2014，独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所，pp.96-99.（共同：清野孝之）

・日本鉱物学会　ポスターセッション「熊本大学黒髪南地区構内の表層堆積物における風化・変質生成物」，2014年９月19日，熊本大学.（共同：那須啓・鳥井真之・磯部博士）

・「熊本大学構内遺跡における縄文時代後期遺跡の発見とその意義」『平成26年度九州考古学会総会研究発表資料集』，九州考古学会，pp.47-56.（共同：大坪志子）

・平成26年度九州考古学会総会　研究発表「熊本大学構内における縄文時代後期遺跡の発見とその意義」，2014年11月30日，福岡大学.（共同：大坪志子）

・熊大ラジオ公開授業「知的冒険の旅」第13回，2015年１月26日，FMK.

・WEBマガジン　KUMADAI NOW「熊大ラボ Knock on the laboratory's door」，2015年３月６日.

付篇３　埋蔵文化財調査センター2014年度文化財活用活動記録

本年度，埋蔵文化財調査センターでは，大学内外に向けた構内遺跡の重要性の周知や，生涯教育での活用を目的とし，遺跡の現地説明会や展示の開催など，様々な文化財活用活動を実施した.

主な活動として，①「地下と地上の文化財散歩」の開催，②黒髪南地区1310調査地点の現地説明会の開催，③五高記念館でのテーマ展示「大宰府へつながる官道～黒髪キャンパスの古代史」および速報展示「地下の文化財速報展示」の開催，④本荘北地区1321調査地点の現地説明会の開催，⑤埋蔵文化財調査センターにおける「地下の文化財速報展示」の開催，⑥授業等への協力，などが挙げられる.

５月12～16日には，昨年度から継続して「地下と地上の文化財散歩」を実施した．黒髪南キャンパスおよび本荘北キャンパスにおいて，重要な遺構や遺物がみつかった調査地点を散策し，調査員によるパネルを用いた解説もおこなった．５日間で大学内外から48名の参加者があり，熊本大学が遺跡の上に立っていることを実感して頂くことができた.

黒髪南地区1310調査地点では，縄文時代後期前半の人骨と墓が発見され，その調査成果を公表するために記者会見と現地説明会を実施した．大学内で縄文時代の人骨が出土したという珍しさや，新聞への掲載，テレビ放送の効果もあり，５月31日に開催された現地説明会では，大学内外から約300名の方々にご参加頂いた．本センターにおける大学外に向けての現地説明会の開催は初めての試みで，担当者は発掘調査を続けながらの準備に大変な苦労を要したが，参加された方々が熱心に質問する様子をみて，現地説明会の重要性を実感した．現地説明会当日は，2013年11月に完成したセン

ター展示室の常設展示も開放し，周知することができた．

８月６日から10月20日にかけては，五高記念館において，テーマ展示「大宰府へつながる官道～黒髪キャンパスの古代史」と速報展示「地下の文化財速報展」を同時に開催した．テーマ展示では，古代の官道や関連遺跡の概要をパネルで示し，大学構内遺跡だけでなく，熊本県内外から借用した官道関連遺物の展示を実施した．一方，速報展示では，2013年度の発掘調査で大学構内から出土した遺物を展示した．開催期間中，10月９日から４回にわたり展示ガイドやガイドツアーを開催したことで，参加者には官道や構内遺跡に対する理解を深めて頂くことができた．開催期間中は五高記念館に約2944名の来館者があり，熊本大学の遺跡の調査成果と古代官道の歴史を伝えることができた．

本荘北地区1321調査地点では，江戸時代の用水路である「井手」の石垣が検出され，その調査成果を広く公表するために，記者会見と現地説明会を実施した．江戸時代の加藤清正公に関連する遺跡ということで，周知期間が短いながらも10月26日に開催された現地説明会には，30名の参加者にお越し頂いた．本年度２度目の現地説明会であったため，前回の反省を活かしながら説明会を開催することができた．今年度は黒髪キャンパスだけでなく，本荘キャンパスでも現地説明会を開催できたことで，大学敷地内の埋蔵文化財の重要性を周知する契機となった．

11月４日から2015年２月27日にかけては，本センター展示室において，「地下の文化財速報展」を開催した．展示の目玉となったのは，黒髪南地区1310調査地点でみつかった縄文時代の人骨である．調査後，一時的に修復を終えた縄文人骨は，多くの人々の関心を集めた．このほか，同地点でみつかった縄文時代後期の土器を主体とし，黒髪南地区1309調査地点における近代墓の出土資料も展示した．１月24日，27日には速報展の説明会をおこなうなどし，展示期間が短いながらも163名の来館者があった．

また，４月から６月にかけては，本学の文学部，教育学部，工学部の先生方から依頼を受け，発掘現場やセンター展示室の見学に対応した．これまで本大学が遺跡の上に立っていることは，とくに学生に対して周知が行き届いていなかった．調査成果や常設展示の公開は，学生に対する文化財の周知に貢献しており，授業内容を充実化させることができた．次年度以降も，こうした授業等への協力を積極的に受け入れたい．

この他，熊本大学構内において重要な成果を得た調査地点を示したパンフレット『熊本大学地下の文化財』の作成をおこなった．以前には，黒髪地区の日本語・英語・中国語・韓国語版を作成しており，これによって大学構内を歩きながら遺跡の概要を把握することが可能となった．本年度は，『熊本大学地下の文化財　本荘地区（本庄遺跡）』の日本語版と英語版の作成を行っており，現地説明会や展示を見学にいらした方々に配布している．３月には，大学構内でとりわけ重要な成果を得た調査地点の周辺に，「学内サイン（地下の文化財案内板）」が設置された．黒髪北・南地区に計10箇所設置し，各地点でみつかった遺物や遺構の概要についてわかりやすく説明している．本学を訪れる方々に，大学が遺跡の上に立っていることを実感して頂き，遺跡をより身近に感じて頂けたら嬉しいかぎりである．今後は，地下の文化財散歩などのイベントでの活用を検討している．

１．地下と地上の文化財散歩の開催

2014年５月12～14日：「地下と地上の文化財散歩」黒髪南コース　開催

2014年５月15・16日：「地下と地上の文化財散歩」本荘北コース　開催

（その他）

2014年春季：熊大通信 vol.52，国立大学法人熊本大学．

２．黒髪南地区1310調査地点の現地説明会の開催

2014年５月29日：「縄文時代後期の埋葬人骨発見」に関する記者会見

会場：熊本大学事務局３階特別会議室

2014年５月31日：熊本大学埋蔵文化財調査センター現地説明会開催　参加者：約300名

（テレビ放送）

2014年５月29日：TKU　スーパーニュース

：NHK　クマロク

：RKK　夕方いちばん

：RKK　夕方いちばん

：KKT　テレビタミン

：KAB　くまパワ

2014年５月30日：NHK　おはよう九州沖縄

（新聞報道）

2014年５月30日：熊本日日新聞　28面
：西日本新聞　28面
：朝日新聞　33面
：毎日新聞　21面
：朝日新聞　31面
：読売新聞　30面
：日経新聞　39面
2014年５月30日　産経新聞　23面
（その他）
2014年夏季：熊大通信　vol.53，国立大学法人熊本大学.
2015年３月：「発見！国立大学」『国立大学』vol.36，p12，国立大学協会.

３．五高記念館におけるテーマ展示「大宰府へつながる官道～黒髪キャンパスの古代史」および速報展示「地下の文化財速報展示」の開催

開催期間：2014年８月６日～10月20日　会場：熊本大学五高記念館　来館者：2944名
2014年10月９・15日：ガイドツアー「肥後官道90分の現地小旅行！」開催　参加者：26名
2014年10月10・17日：展示ガイド「15分でわかる肥後官道のツボ！」開催　参加者：14名
（新聞報道）
2014年８月７日：熊本日日新聞　17面

４．本荘北地区1321調査地点の現地説明会の開催

2014年10月25日：「熊本大学病院内で江戸時代の井手発見」に関する記者会見
会場：熊本大学医学部附属病院管理棟２階　第２会議室Ｂ
2014年10月26日：熊本大学埋蔵文化財調査センター現地説明会開催　参加者：約30名
（テレビ放送）
2014年10月25日：TKU　ニュース
（新聞報道）
2014年10月26日：熊本日日新聞　21面
（その他）
2014年冬季　熊大通信 vol.55，国立大学法人熊本大学.

５．埋蔵文化財調査センターにおける「地下の文化財速報展示」の開催

開催期間：2014年11月４日～2015年２月27日　会場：熊本大学埋蔵文化財調査センター　来館者：163名
2015年１月22・27日：展示解説開催　参加者：52名
（新聞報道）
2015年１月20日：熊本日日新聞　15面
2015年１月23日：西日本新聞　29面
2015年１月24日：朝日新聞　32面
（その他）
2014年12月24日：『Espresso』vol.15，p102，くまもと経済.

６．授業等への協力

2014年４月16日：本学文学部の杉井健准教授と授業履修生10名が1310調査地点を見学
2014年４月18日：本学教育学部の山本耕三准教授と授業履修生40名が1310調査地点とセンター展示室を見学
2014年４月24日：本学文学部歴史学科考古学研究室の学生６名が1310調査地点を見学
：本学文学部の木下尚子教授の授業履修生70名がセンター展示室を見学
2014年４月25日：本学文学部の杉井健准教授と授業履修生19名が1310調査地点とセンター展示室を見学
：本学教育学部の宮縁育夫准教授と学生５名が1310調査地点を見学
2014年６月９日：本学文学部の木下尚子教授と授業履修生25名（留学生）がセンター展示室を見学

2014年６月24日：本学工学部の重石光弘准教授と授業履修生73名が1310調査地点とセンター展示室を見学
2014年11月１日：熊本大学ホームカミングデイによる文化財散歩を開催　参加者：17名

写真300　地下と地上の文化財散歩

写真301　黒髪南地区1310調査地点の現地説明会

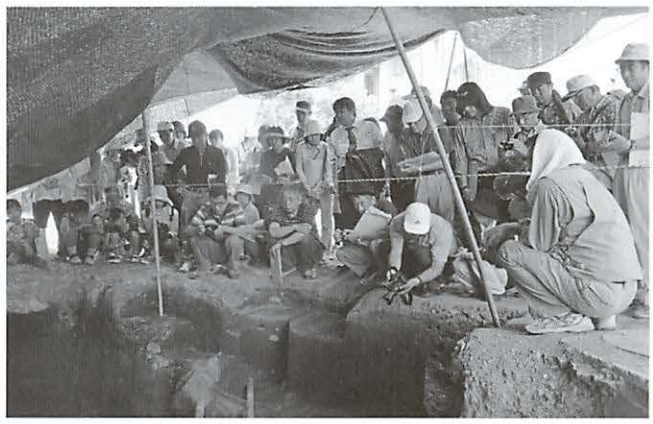


写真302　五高記念館でのテーマ展示展示ガイドツアー

写真303　本荘北地区1321調査地点の現地説明会

写真304　センターでの速報展示展示解説

写真305　授業への協力（黒髪南地区1310調査地点）

報告書抄録

ふりがな	くまもとだいがくまいぞうぶんかざいちょうさせんたーねんぽう　21
書名	熊本大学埋蔵文化財調査センター年報　21
副書名	
巻次	
シリーズ名	熊本大学埋蔵文化財調査センター年報
シリーズ号	21
編著者名	木下尚子・松田光太郎・大坪志子・山野ケン陽次郎・大崎喜美子
編集機関	熊本大学埋蔵文化財調査センター
所在地	〒860-8555　熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1　TEL.096-342-3832　FAX.096-342-3832
発行年月日	2016年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
くろかみまち 黒髪町遺跡群 （１３１０地点）	くまもと 熊本県 熊本市 くろかみ 黒髪	43 201	278	32° 48′ 47″	130° 43′ 46″	20140401 ～ 20150320	5275.60㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 （１３２１地点）	くまもと 熊本県 熊本市 ほんじょう 本荘	43 201	285	32° 47′ 49″	130° 42′ 44″	20140425 ～ 20141209	1551.50㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 （１３２２地点）	くまもと 熊本県 熊本市 ほんじょう 本荘	43 201	285	32° 47′ 49″	130° 42′ 44″	20141127 ～ 20141202	230.60㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 （１３２５地点）	くまもと 熊本県 熊本市 ほんじょう 本荘	43 201	285	32° 47′ 49″	130° 42′ 44″	20140603 ～ 20141113	487.70㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
きょうまちだい 京町台遺跡 （１４１７地点）	くまもと 熊本県 熊本市 きょうまち 京町	43 201	238	32° 49′ 05″	130° 42′ 16″	20140911 ～ 継続中	747.90㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 （１４２３地点）	くまもと 熊本県 熊本市 ほんじょう 本荘	43 201	285	32° 47′ 53″	130° 42′ 45″	20141016 ～ 継続中	148.26㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 （１４２６地点）	くまもと 熊本県 熊本市 ほんじょう 本荘	43 201	285	32° 47′ 48″	130° 42′ 41″	20141117 ～ 20141224	2141.0㎡	学校敷地内の開発事業に伴う

※北緯・東経の数値は世界測地系に基づく値です

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
くろかみまち いせきぐん 黒髪町遺跡群 （１３１０地点）	集落址	縄文・古代・近世・近現代	竪穴住居・溝・ピット・土坑・土坑墓・配石墓	縄文土器・石器・土師器・須恵器・紡錘車・古銭・鉄製品・銅製品・陶磁器・土製品・人骨	縄文人骨
ほんじょう いせき 本庄遺跡 （１３２１地点）	集落址	古代・近世	竪穴住居・溝・ピット・石垣	土師器・須恵器	井手
ほんじょう いせき 本庄遺跡 （１３２２地点）	集落址	古代	溝・ピット	土師器・須恵器	
ほんじょう いせき 本庄遺跡 （１３２５地点）	集落址	古代	竪穴住居・溝・ピット	土師器・須恵器	
きょうまちだい いせき 京町台遺跡 （１４１７地点）	集落址	弥生・古代・近世	竪穴住居・溝・ピット	弥生土器・土師器・陶磁器	
ほんじょう いせき 本庄遺跡 （１４２３地点）	集落址	古代	溝	土師器・須恵器	
ほんじょう いせき 本庄遺跡 （１４２６地点）	集落址	古代	竪穴住居・溝・ピット	土師器・須恵器	

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報21
—2014年度—

平成28年３月31日　印刷
平成28年３月31日　発行

編集兼発行者　熊本大学埋蔵文化財調査センター
熊本市中央区黒髪２－39－１
電話（096）342－3832
印刷所　シモダ印刷株式会社

Published by
Research Center for Buried Cultural Properties,
Kumamoto University
Kumamoto, 2016